ちょっといい話

～ 心がけ ～

心の持ちようで随分変わるものです。第 25 号で煩悩を消して行こう、と言う話をしました。行動には能動的と受動的との相反する二つがあります。行為に対して心の様相は大きく異なります。私達は目的に向かって頑張るぞと心に決めて進む、又、進まなくてはならないとは思いますが心の持ちようで大きく違ってしまうものです。檀信徒の中にも物事に対して、やらさしていただく、やらさしていただけるから有難い、と仕事はもちろん、お寺に対しても身を惜しまず尽くして見える方がおられます。その結果を見さして頂くと俺が俺がと言う方よりも全て順調に事が進んでいる様に思われます。それはその方の価値観が上昇した事によると言えましょう。結果全ての縁起を良くしてしまう、心がけとは何と不可思議なものでしょう。縁起を担ぐのも一興です。

俗にいえば、その心がけが仕事に好かれ、佛様に気に入られた結果といえましょう。俺がやってやった、と言う事に成りますと相手に対する印象がとても悪いようです。もったいぶってはいけません。「舍利禮文」に爲我現身、入我我入、佛加持故、とあります。人の心に我が身が入れるように、そして我が身の心にも人が入れるように、共に喜びが味わえるように修行しなさい。と説かれています。そのことが良く判る歌もあります、耳に聞き心に思いて、身をたもち、いつか菩提に入るぞ嬉しと自然に手が合わさるものです。各家庭の御仏壇の仏様は御ぞんじの様に善入院御本尊様の御分身であり、そのの魂が御分身の中に入っているのです。それは毎日お寺に詣で答礼するのが本意なれども叶わぬ故の所作から始まったのです。当山では月に三回も檀信徒の方々が集いて心経を称え大御親（阿弥陀様）に答礼して頂いている のです、これ最上の歓びなり。皆様の心がけが仏法の基に生き生かされている証でありましょう。もう一度第１５号「月影」を参照して下さい、私達が気お付けたいのは心がけしだいで仏にもなれるし、鬼にも成れると言うことです。特に口はわざわいのもとです。要心、要心、御要心。

善入院油掛地蔵尊